

デジタルツインでオフィスコスト削減 交流活性化の対応モデル化

名前 衛藤典史 メールアドレス netounetounetou@gmail.com

コロナによるオフィス環境変化の課題

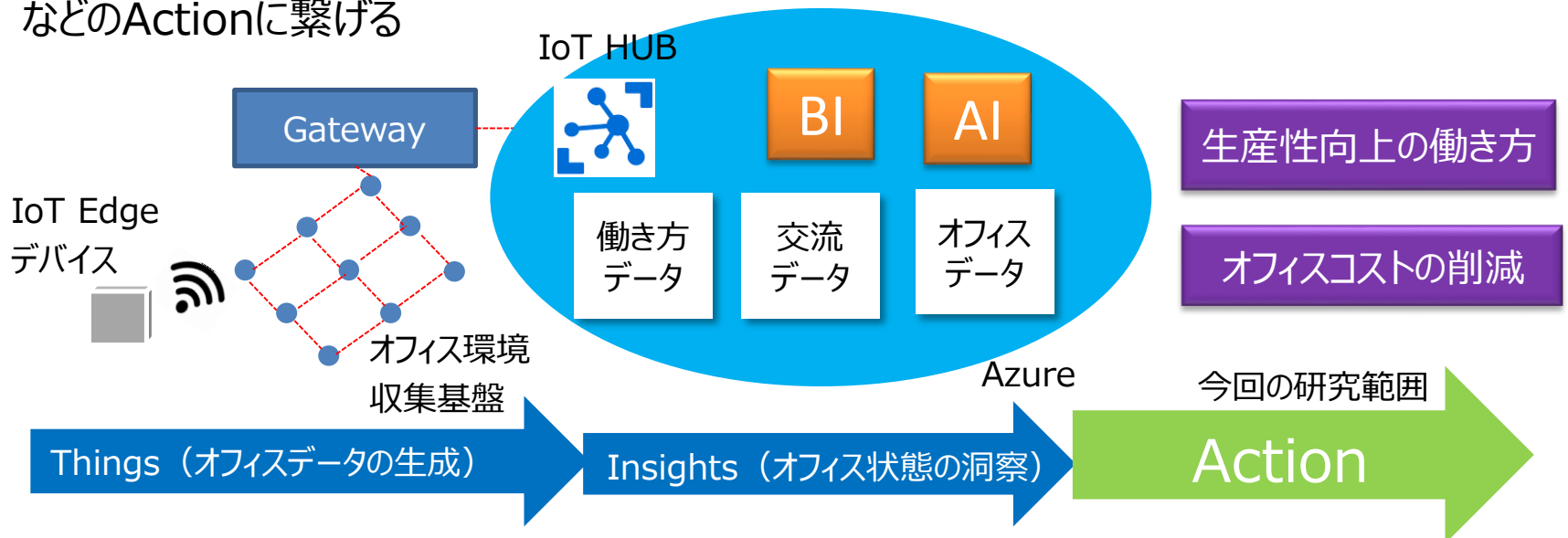
- テレワーク活性化により**オフィスコストが重荷**に
- **分散して働く環境**で組織としてコミュニケーションやアイデアをどう醸成するか**イノベーションの必要性**
- オフィスが「**交流・コミュニケーション**」を重要視した**スペース**となり、オフィスの在り方を変更する必要性

デジタルツインでデータ解析による解決

- IoTアーキテクチャーを活用したオフィスの**デジタルツイン基盤の構築**
- KPI達成率向上のモデル化による**生産性向上の働き方**を促す
- オフィスコストの最適投資のモデル化による**オフィスコストの削減**

デジタルツイン基盤 (IoTアーキテクチャー K7)

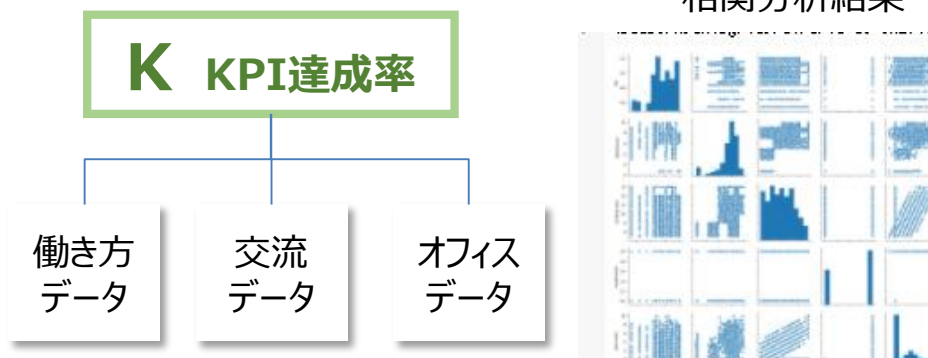
オフィスの物理世界の情報をAzureに収集し、組織のKPI達成率予測による生産性向上などのActionに繋げる



研究範囲 (機械学習 K7、ビックデータ分析 K11)

働き方データ、交流データ、オフィスデータの約40項目の因子から、KPI達成率を予測

相関分析結果



考察(抜粋)

KPI達成率予測でActionを促すビジネスモデル

- ◆ 働き方データを活用したモデル化
 - ✓ KPI達成率に**逆効果があるのがオフィス密度**である ⇒ オフィス密度を低く保つオフィスが効果的
- ◆ 交流データを活用したモデル化
 - ✓ **A部とB部と交流するとKPI達成率向上に貢献する** ⇒ A部とB部に**アクセスしやすいオフィスレイアウト**や**定例会議などコミケプラン**を企画する
- ◆ オフィスデータを活用したモデル化
 - ✓ **予定利用率と設備満足度の向上がKPI達成率向上に効果がある** ⇒ 予定なしで利用できる**交流スペース**と**ビデオ会議システム**などの導入が効果的